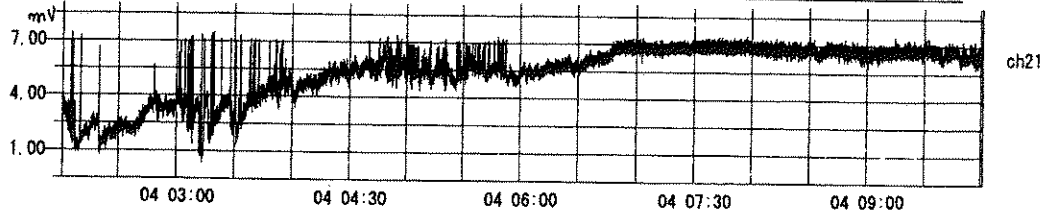


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆 第17ステージ認識の可能性⇒7月11日迄前兆継続の可能性

右波形:CH21(八ヶ岳)
長期間特異状態のCH21が
07月04日午前約3時間、
正常静穏基線を記録した



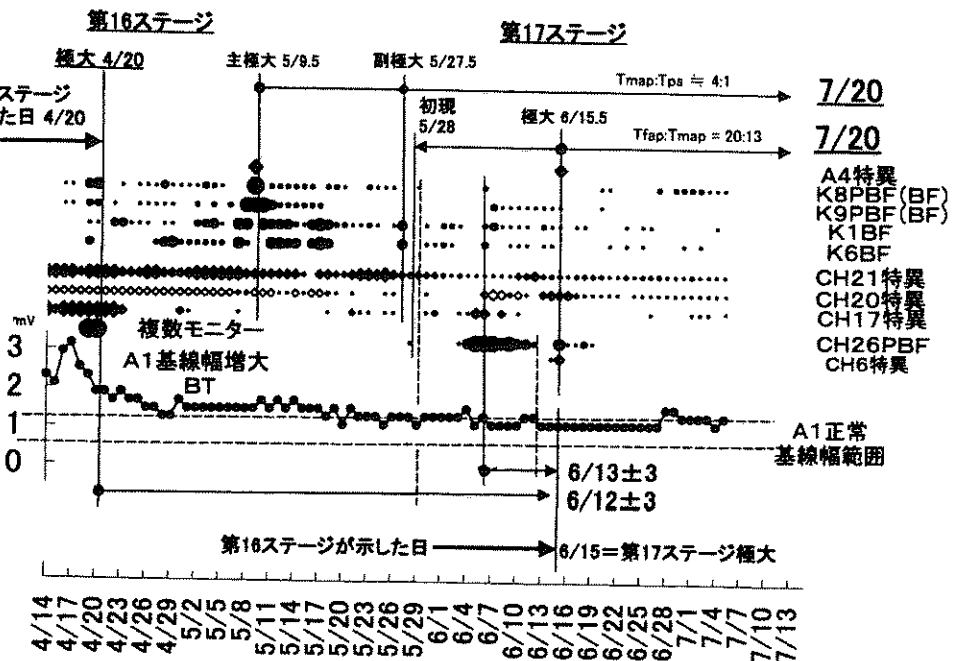
2008年7月初旬から8年間
継続出現のNo.1778長期継続特
殊前兆の続報、検討結果、現
況報告です。

No.1778前兆は、前までの認
識理解では、07月初旬迄に前
兆が終息する可能性も考えら
れました。上波形のとおり、実際 7/4に
は長期間特異状態が継続出現していたCH
21に、3時間ほど、正常基線が出現し、
他の前兆も微弱であること等から、07月
12日±時期の可能性も検討し、完全終息
を待つと同時に、他の可能性の検討も行
っておりました。CH21は上波形の正常基
線を記録したのち、再び特異状態が出現
しています。このことから7/12以前の発
生の可能性は否定できません。

あらためて本年春以降の前兆出現状況
を見直しました。5/9.5 極大が6/15極大
を示すだけには見えず、やはり5/27のK1,
K6の顕著化再出現が気になりました。

5/9.5 主極大、5/27.5 副極大と見ます
と、副極大が鋭いピークで、 $T_{map}:T_{ps} = 4:1$ 近似の可能性があ
ります。 $T_{ps}=18$ 日で $T_{map}:T_{ps}=4:1$ 使用の場合、 $T_{map}=72$ 日と
なり、07月20日を示すこととなります。

また、CH26に出現したPBFは、5/28に短時間微弱に出現して
おり(既に以前からマーク有)、これを初現とし、6/15.5を極大
として、 $T_{fap}:T_{map}=20:13$ で計算しますと $7/19.9 \pm \Rightarrow 7/20 \pm$



を示します。どちらも07月20日±を示すこととなります。この
場合は、07月11日±迄、現在の前兆が継続出現することになり
ます。あと一週間程で前兆が終息する可能性は、現在の前兆
出現状況からは十分考えられます。

以上のことから、第17ステージ認識を誤認していた可能性が
高く、前述の認識が正しければ07月11日±の前兆終息が観測さ
れる可能性が示唆されます。

実際の前兆
終息を観測し
て、発生日を
修正したいと
考えます。
今後更に極
大が出現した
場合は、7/11
±前兆終息は
確認できない
可能性もあり
ますが、その
場合は適時検
討します。

- ◆推定領域: 右図 ・大枠推定領域=点線内領域
・可能性が考え易い推定領域=太線内領域
・火山帯近傍地震前兆を加味した参考推定領域=斜線領域

- ◆推定規模: $M7.8 \pm 0.5$ (複数のPBF前兆より)
(参考: 火山帯近傍地殻地震前兆は $M6.7 \pm 0.5$ を示す)
これが何を意味するのか、現状不明。

- ◆推定時期: 現状考えやすい=7月20日±2
※但し、上記推定は7月11日±前兆終息が条件
今後更に極大が出現した場合は適時再検討。
実際の前兆終息を観測して修正有。

- ◇推定地震種: 震源浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻: 午前9時±1 (又は午後6時±3)



※上図は最も考えやすい前兆出現影響局から作図で求めた
推定領域です。可能性低いですが、影響局誤認の場合は
全く異なる領域となります。仮に別の領域での活動とな
った場合には、深くお詫び申し上げます。